

「生理人類士」資格認定者数

	1級 アメニティプランナー	準1級 アメニティコーディネーター	2級 アメニティスペシャリスト	総計
2000	6	5	24	35
2001	3	5	86	94
2002	3	16	134	153
2003	0	5	95	100
2004	2	12	113	127
計	14	43	452	509

2004年度「生理人類士」認定者

1 級（アメニティプランナー）

山下敏樹 樋口重和

準1級（アメニティコーディネーター）

大野明子 高橋寿磨子 Hu chinghung 有馬直美 切通良栄 白土陽子 新内沙織 中村由実 廣瀬さやか 堀江美代子 森 理絵 渡邊良子

2 級（アメニティスペシャリスト）

村上由紀 長谷川やよい 平井 薫 山崎紀栄子 渥美紫野 山内まゆ 上原利絵子 内藤かおる 岡本身江子 野口由美 川村晶子 加藤ますみ 秋元世志枝 増田昭代 浦田睦子 古屋野啓子 武山美保 平瀬理恵 原 紀子 吉田恵美子 中村未弓 浅沢悦子 青山聖子 朝倉早苗 田中由美子 奥村恵子 市川 紀 小林正子 柿澤寿代 杉浦仁恵 中村明美 谷 恵美子 地曳宏行 中崎恭子 中野敬子 許 海波 森 愛芽 藤木智子 高田瑞穂 宮崎朋美 池田鮎美 沢田由喜 黒田未来 南雲葉月 鈴木恵美子 深澤瑞紀 新保杏子 高橋彩衣 熊坂しおり 磯部花映 近江茉莉子 吉村彩花 峯岸紗織 蔡 楠 根本幸子 福本智美 越智純子 出口志保 田村千秋 原真文絵 鷲見彩子 佐川 香 天野公美子 植木真理 川井今日子 神農 萌 菅野明希 瀬川果那 瀬戸口 明子 野崎麻理 平塚梨沙 安藤浩子 池田美央 石黒真理 岩見聖子 江村直美 太田麻里奈 門松のぞみ 佐久間梨紗 佐々木麻友 鈴木由布子 土山友子 長嶋 彩 萩原美由紀 長谷川絵里子 林田舞子 樋口晴香 堀越俊江 三品郁恵 三原田麻美 武川美喜子 武藤朋子 山崎 萌 吉村 愛 渡辺英子 青山由喜 秋山 祐 貴子 今村麻衣 櫻井ひと美 竹島理恵子 田崎昌子 田代美佳 永富綾子 成安玲菜 原 千枝子 比良田恭美 古村 綾 堀留 好 本田 都 牧野仁美 山本早恵 吉田裕子 渡辺枝里

アメニティの機関紙

アメニティの機関紙
第 3 号
2006年1月30日発行
日本生理人類学会
資格認定委員会

本年度より、資格認定委員会委員長を務めております神戸芸術工科大学の古賀俊策です。生理人類学は現代に生きる私たち自身についての人類学であり、人間生活の質の向上に直接関わる科学です。今日、生理人類学的な問題の捉え方や解決の方法は益々、必要の度を高めつつあります。日本生理人類学会では、この領域に携わり得る人材育成のため、生理人類士認定制度を創設し、2005年度で6年目を迎えました。この間に多くの方々
が認定を受けて各方面で活躍されています。この業績を踏まえて資格内容の一層の充実を図る予定ですので、幅広く多くの方々に受験していただくことをお勧め致します。本制度における資格には次の3種の区分があります。アメニティプランナー(生理人類士1級)は、大学や企業等において既に御活躍中で豊富な実績のある方々を対象としています。また、アメニティコーディネーター(生理人類士準1級)とアメニティスペシャリスト(生理人類士2級)は、大学・短期大学等における学部から修士課程までの学生や企業等において現在御活躍中の方を対象としています。この「アメニティ」資格は、あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案やアドバイスを行なうことができる重要な資格といえます。「アメニティ」資格を有することで、高齢者や障害者を含めたあらゆる人、働く人の心と体に優しい環境づくりを追求します。

生理人類学の進展と社会貢献を目指した人材を育成する資格制度として、より充実したものにすることが必要であり、現在、その方策について検討を進めているところです。特に、生理人類士認定試験の手引書である「生理人類士」のテキスト内容について、検討がなされています(生理人類学キーワードの説明、分かりやすい図・表・写真等の掲載、演習問題の大幅な追加など)。また、生理人類学は日々進展しておりますので、資格取得者への今後のフォローや生理人類士相互の情報交換が必要であると思われます。

皆様方には、指定校拡大や資格認定制度のさらなる充実のために、ご協力・ご支援くださいますよう、宜しくお願いいたします。

2006年1月
資格認定委員会委員長
古賀俊策

<生理人類士認定委員会事務局および問い合わせ先>

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 (株)国際文献印刷社内
TEL: 03-5389-6218 FAX: 03-3368-2822 jspa-post@bunken.co.jp

生理人類士の声

今回は、生理人類士1級（アメニティプランナー）と準1級（アメニティコーディネーター）取得者の方から記事をいただきました。

2004年生理人類士1級

山下敏樹さん（ヤマハリビングテック株）

「商品開発と生理人類学」

私は製造メーカーに入社以来、住宅設備の開発・設計に従事しております。これまで数多くの製品を開発してきましたが、どの開発におきましても使いやすい製品、言い換えれば人にとって優しい製品は重要な開発テーマの一つでありました。世の中の時流もユニバーサルデザインに注目が集まる中、近年の製品開発において生理人類学に出会うことになりました。それまでは人間生理には興味を持っていたものの、商品開発に活用する機会がありませんでしたが、産学共同研究という形で背中を押しいただいた諸先生方に感謝いたします。今後も技術者として人間の多面的な特徴を理解した上で、生理データの取得、分析結果を製品へ活用することで人々の豊かな暮らしに貢献して行きたいと思っております。これはこれからの高齢化社会を見据え、我々のような人々の暮らしに密着している住宅設備機器の製造・販売をしているメーカーの責務と考えております。



2003年生理人類士準1級

朴美卿さん（産業医科大学）

「生理人類学と女性労働」

私は産業医科大学で女性労働に関する研究を行っている。女性には月経周期と関連した女性特有な症状が多い。これには生理痛やPMS(月経前症候群)、閉経に伴う女性ホルモンの分泌低下による更年期障害などが含まれるが、実際これらは女性の生活の質を下げる要因になっている。近年、高齢化、少子化の進行に伴い生産人口が減少することにつれ、女性は労働現場において重要な労働資源になっているため、女性の生理特性に関する研究への要求も高まりつつある。従って、労働環境を評価すると共に女性の生理特性を明らかにする研究は、労働適応能力を低下させる条件を早い段階で除去し、働く女性にとって快適な職場環境づくりを可能とし、さらに健康障害や労働生産力の損失の予防にまでつながると思われる。今後、私は生理人類学を土台とし、女性の生理特性と労働環境を色々な側面から研究していきたいと思う。

2004年生理人類士1級

樋口重一さん（秋田大学）

「クールビズに学んだ今年の夏」

今年の夏にクールビズが流行しました。ビジネスマンの軽装を推奨するクールビズには大賛成ですが、単純に喜べないこともありました。夏のネクタイや上着の着用が身体の温熱的負担を高めることは昔から分かっていたことですし、過剰冷房による冷房病の問題もまさに生理人類学の得意とするところのほうです……。学会としてもっと早い時期に何らかのアピールができたのではという気がしてなりません。真夏の暑い時期にスーツを着た男性やカーディガンを手放せない女性を見るたびに、健康影響に関する科学的な証拠があっても、あるいは個々人が頭では分かっているにもかかわらずなかなか変わらないし、変えるのも難しいものだとつくづく感じていました。そのような矢先に、環境省のトップダウン的とも言える大号令とともにいとも簡単に流れが変わってしまったのです。しかも、クールビズはヒトの健康影響が主題ではなく、省エネやCO2排出削減など環境問題を全面にした戦略でした。人間を科学するものにとってはなんとなく無力さを感じる瞬間でしたが、学ぶべきこともありました。人間と生活環境のより良い関係、いわゆるアメニティの実現には、生理的あるいは生物学的な人間の理解に立脚していることは大前提なのですが、それだけではなく人間を取り巻く社会や文化も含めた包括的な環境の理解、時代の流れを読む力、人々の心をつかむ機知なども必要なのだと改めて考えさせられました。そんなクールビズな夏でした。

投稿記事大募集！

生理人類士を取得された皆様へお願い

生理人類士を取得し、その後どういう仕事を行っていますか？生理人類士として、社会で活躍されている方の経験談や、生理人類士の資格をどのように生かしているかについてなどを、「アメニティの機関紙」への投稿を大募集いたします。事務局宛まで投稿原稿をE-mailで送っていただくか、FDにテキスト形式で入力したものを郵送してください。

今後、このアメニティの機関紙を生理人類士同士の情報交換の場として御活用いただければ幸いです。